

日本女子大学 心理学科の会 会報

さいころじん 2





第23回心理学科の会総会



2017年10月21日(土)、第23回心理学科の会総会が行われました。出席者14名、委任状388名により、会費納入者の過半数を超え、総会が成立いたしました。

第23回心理学科の会総会 会長 中村眞理氏よりご挨拶

『今年度会長を務めさせていただきました、中村眞理でございます。日女祭講演会「これが私の生きる道」という素晴らしい講演会で、皆様も本当にお疲れさまでございました。今後も心理学科の発展のため、皆様のお力をいただくことが多いと思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。』

2016年度 活動報告(事業報告)

◇総会開催 ≪日女祭 同時開催 2016年10月15日(土)≫

◇講演会

2016年度10月15日(土)≪日女祭同時開催≫西生田キャンパス B棟24番教室

飯長喜一郎氏 日本女子大学名誉教授

「学生が飯長先生と深める 心理学の時間」

◇さいころじん(第22号)の発行

◇総会準備(卒業生への総会の案内の送付、2016年度決算報告の作成、2017年度予算案の作成など)

2016年度 決算報告 次頁参照

2017年度 活動方針(事業案)

活動方針

継続して、卒業生委員の活動を活性化する。

事業案について

◇総会開催 ≪日女祭 同時開催 2017年10月21日(土)≫

◇講演会 ≪総会 同時開催≫ 西生田キャンパス B棟24番教室

伴由依氏(2014年卒)・三浦葵氏(2011年卒)・佐野智代氏(2011年卒)

「これが私の生きる道～先輩方が選んだ進路とは～」

◇さいころじん(第23号)発行

◇総会準備(卒業生への総会の案内の送付、2017年度決算報告書の作成、2018年度予算案の作成など)

2017年度 予算案 次頁参照



会員承認について

新会員 84 名(大学院生 5 名 学部生 79 名)

平成28年度 会計決算報告
H28.10.1~H29.9.30

収入の部		(単位:円)	
費目	予算額	決算額	適用
前年度繰越金	2,399,738	2,399,738	
入会費/会費	600,000	594,000	H28年度新入会費/会費
雑収入	1,000	21	利息債
心理学科助成金	179,000	179,000	大学刊行助成金
合計	3,179,738	3,198,759	

2017.9.30現在

支出の部		(単位:円)	
費目	予算額	決算額	適用
印刷費/報告書	300,000	251,100	研究成果報告書外部印委託
会報	200,000	172,800	さいごろじん外部印刷委託
宛名タック紙	20,000		
人件費/発送作業	40,000	14,500	発送封入作業アルバイト代
行事費/総会運営	10,000	13,530	総会資料印刷
講演会	250,000	143,696	講師謝礼 他
親睦会	10,000		
事務費/送料・通信費	300,000	174,096	印刷・郵送代
事務消耗品	10,000	21,384	A4マット紙
会議費	20,000		
雑費	10,000	432	変払手数料他
学生会会活動費	100,000		
卒業生部会活動費	100,000		
次年度への繰越金	1,809,738	2,378,251	
合計	3,179,738	3,198,759	

以上、相違ありません。

2017年 10月16日

平成29年度 会計予算案
H29.10.1~H30.9.30

収入の部		(単位:円)	
費目	予算額	適用	
前年度繰越金	2,378,251		
入会費/会費	600,000	H29年度新入会費/会費	
雑収入	100	利息	
心理学科助成金	179,000	大学刊行助成金	
合計	3,157,351		

2017.9.30現在

支出の部		(単位:円)	
費目	予算額	適用	
印刷費/報告書	300,000		
会報	200,000		
宛名タック紙	20,000		
人件費/発送作業	40,000	20,000×2回	
行事費/総会運営	20,000		
講演会	250,000		
親睦会	0		
事務費/送料・通信費	300,000		
事務消耗品	20,000		
会議費	10,000		
雑費	10,000		
学生会会活動費	100,000		
卒業生部会活動費	100,000		
次年度への繰越金	1,787,351		
合計	3,157,351		

2017.9.30現在

心理学科の会 委員 M1

平川 千波 



心理学科の会総会の様子

心理学科の会 これが私の生きる道～先輩方が選んだ進路とは～



左より 伴さん・三浦さん・佐野さん・会長の中村さん・塩崎先生

2017年10月21日(土) 22番教室

☆講師

- ・伴 由依さん(2014年卒・竹内ゼミ)
株式会社クリーク・アンド・リバー社所属
フジテレビドラマ DVD 制作進行
- ・三浦 葵さん(2011年卒・岩立ゼミ)
法務省 法務技官
家庭裁判所の審判に付された少年への鑑別
- ・佐野 智世さん(2011年卒・鶴養ゼミ)
東京都 児童相談所 児童心理司
虐待・非行等への相談

当日はあいにくの天気でしたが、たくさんの方がご来場くださいました。
講演は、塩崎尚美先生がファシリテーターとして進めてくださいました。
学生から講師の皆さんへの質問も多く、将来について考えている様子を垣間見ることができました。



■ 講演内容(抜粋)

・伴 由依さん のお話

現在ドラマ DVD の作成進行の仕事をしています。就職活動はマスコミ志望で、テレビ業界に絞り活動をしました。今の仕事の前は、テレビ AD を担当していました。

現在の仕事はドラマ放送終了までに BOX のデザインを確定させること、DVD 発売までには想像以上に申請・確認作業が多く、DVD BOX のデザインを考えるときに、竹内ゼミで色彩について学んだ経験がとても活かされています。

・三浦葵さん のお話

卒業後、心理職とは別の仕事をしていたがやはり心理職に就きたいと思い、今から 2 年前、法務省矯正局に入省しました。東京少年鑑別所・さいたま少年鑑別所で勤務した後、現在は榛名女子学園(女子少年院)で働いています。

法務技官は、少年院での鑑別や刑事施設での定期再調査以外にも、地域援助として相談・講演を行うこともあります。

少年院では、集団でいることで起きる問題もあるので、面接や知能検査を行い、問題解決のサポートを行っています。

・佐野智世さん のお話

今から 4 年前に大学院を卒業した後、教育相談・スクールカウンセラーとして勤務しました。そして今年から心理職として東京都に入都し、児童相談所で児童心理司として働いています。東京都は心理の仕事が充実しているので、東京都一本で受験しました。

児童心理司は、子どもや保護者のアセスメント・心理ケア・地域援助の 3 つが仕事の柱です。児童心理司は自分から動いて様子を見に行くことができるので、とてもやりがいがあります。

先輩方のそれぞれの職場は、育休・産休などの制度が整っている環境なので、この先もお仕事を続けていきたいとおっしゃっていました。



現在働いておられる先輩方の貴重なお話、大変興味深いものでした。

伴さん、三浦さん、佐野さん、ありがとうございました。



岡本安晴教授 ご退職記念特集

最近の研究

共通数量化による分析例—心理学科入学者の分析—

共通数量化の目的: 1. 数量化をより易しく解り易く。2. 複数の分析において

共通の数量化。3. 連続量とカテゴリ変量の同時分析。

⇒事実をありのままにとらえ易くなる。

心理物理学(精神物理学): 3件法、4件法の良さを統計学的視点から示した。

心理尺度の信頼性係数: カテゴリ項目に適した指標を提案。



岡本先生は 1949 年大阪府生まれ。1972 年京都大学理学部数学科卒業、1977 年京都大学大学院文学研究科博士課程(心理学)を満期退学。1983 年文学博士(京都大学)。1977 年日本学術振興会奨励研究員となり、1978 年より京都大学文学部助手、1983 年より金沢大学文学部助教授・教授の職を経、2001 年より日本女子大学人間社会学部教授。

また、『大学生のための心理学 VC++プログラミング入門』、『統計学を学ぶための数学入門(上・下)』、『データ分析のための統計学入門』、『心理学データ分析と測定』をはじめ、心理学で使用する統計処理について、重要点をしっかりと解説した良書を多く執筆されています。

心理学初級演習、基礎心理学概説・7-I、データ分析法概説の講義を担当されており、心理学科の学生なら皆一度はお世話になっています。科学としての心理学と真剣に向き合う先生の姿勢を見て学んだことを大事にしていきたいと思います。



インタビュー

Q1. お生まれ、お育ちからお聞かせください。

A1. 大阪府で生まれ、幼稚園～中学校は、大阪と京都の間あたりの守口で育ちました。子供のころは、潜水艦の艦長さんになりたいと思っていました。

高校生の頃は、真理に興味がありましたが、哲学は論理的にどこか納得できないところがあり、正しい論理を求めて数学の基礎論に興味を持つようになりました。当時、興味を持った分野の先生は北海道大学におられたのですが、寒そうだなあと感じ、近場の大学を受けることにしました。志望大学は、京都大学の簡潔な解答を

求める数学や物理の問題との相性が良く、受けてみようという風に決まりました。

Q2. どんな大学生時代でしたか？

A2. 興味のある授業をとっていたら、時間をくう授業が多くなっていました。図学・ロシア語・美学・物理学・論理学・そして心理学。2年生の後半では、物理学など科学系の分野への興味が強まっており、学科・研究室の選択には迷いました。しかし、もともと論理学の基礎としての数学を学びたいとの思いで入学したのだからという理由で数学を選択しましたが、数学基礎論のゼミがなかつ

たということもあり、なかなかエンジンがかからず、困りました。そのため、改めて関心のあることを勉強し直したいと思い、親の理解も得て、当時最も関心のあった心理学への転学を決めました。しかし、当時同大学文学部の心理学は定員一杯で、転学を受け入れる余裕はない、との回答でした。転学の相談に乗って頂いた先生方からは、私の心理学の関心は文学部の心理学であると御指導を頂いていました。その結果、同大学の文学部心理学の大学院を受験することにしました。大学院の受験の時に提出した論文では、グラフ理論に基づく人間関係のシミュレーションモデルを扱い、計算は計算尺を使って行いました。現在より時間と手間がかかりましたよ。

Q3. 大学院に進まれてからは、いかがでしたか？

A3. 研究室に入ればデータは簡単に手に入ると思っていたので、社会心理学のデータを取るのが難しい、ということには驚きました。社会心理学の研究をしていく中で、学習理論(当時の社会心理学に学習理論に基づく理論構成がありました)、そして、生体は何を学習しているのかという問題から、知覚対象の研究に興味が向いてきました。感覚など知覚の基礎に関わるものとして精神物理学(心理物理学)への関心が強くなりました。置かれた研究環境では、たくさんの適切なデータを集めることが大変だったので、少ない協力者でも実験ができることを魅力的に感じたことも、精神物理学の研究を始めたきっかけの1つです。

Q4. おすすめの学食のメニューはありますか？

A4. 麺類を食べることが多いですが、どれも良いです。ただ、量が少ないので、増やしてほしいです。

Q5. 通勤中には、音楽を聴いているのですか？

A5. 通勤中は基礎英語を聞いて耳を慣らし、脳のユニットの退化を防いでいます。

Q6. 休日は何をされていますか？

A6. 散歩か読書かプログラミングをしています。

Q7. 学生におすすめの本はありますか？

A7. ・すごい物理学講義

(原題: La realtà non è come ci appare、カルロ・ロヴェッリ著、竹内薫監訳、栗原俊英訳)



・・・物理学の学生でさえ感動する「世界一わかりやすい最先端物理学」をまとめた世界的なベストセラー。物理学者たちの発見を、わかりやすく知ることができます。著者は、物理学を関係性の問題として説明しています。私は、認知とか知覚など心理学も関係性、例えば、生体と環境における関係性、という視点から考えることもよいのではと思っています。

・科学の発見

(原題: TO EXPLAIN THE WORLD、

スティーヴン・ワインバーグ著、赤根洋子翻訳)



・・・本書は、かつての科学を現代物理学の視点から論じている快刀乱麻の科学史書。

Q8. 心理学とはどのような学問であるとお考えですか？

A8. 現状と、こうあってほしいというかたちは違いますが・・・。現在、統計分析などの学問をゲームのようなものだ、とする意見も多くあります。しかし、本来、科学とか心理学は、事実に基づいて真理を探究する学問だと思うのです。

Q9. 日本女子大学の学生について、どう思われますか？

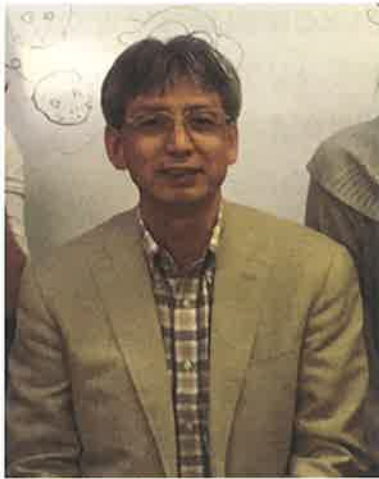
A9. みなさん、落ち着いていて、おとなしくて、頑張り屋さんですよ。

Q10. 最後に、日本女子大学心理学科で学ぶ学生にメッセージをお願いします！

A10. 絶えず正しい心の見方を求めてください。



小山高正教授 ご退職記念特集



【退職挨拶】

この原稿を書くにあたり、心理学科20周年記念文集の原稿を読み返してみました。赴任した当初からの学科でのことは、そこでほとんど書いてしまっていたので、ここでは学生さんたちとの出会いについて触れておきたいと思います。

大学の研究は院生が支えているものだと思っていましたが、日本女子大に来てみると院生は研究者の扱いを受けていないことを知り、驚いた記憶があります。それはともかく、比較発達研の研究テーマを展開してくれたのは錚々たる顔ぶれの院生たちです。老齡ザルは久保南海子さん、環境ホルモンは中神明子さん、繁殖戦略は小林麻衣子さん、J.COSS は中川佳子さん、化粧研究は上田彩子さん、皆さんそれぞれ学位論文にまとめられたのは偉かったです。ラットは小山研の売りでしたが、田淵朋香さん、佐藤多佳子さん、鈴木美穂さんの三人組がいなければ続きませんでしたし、その後安江みゆきさんがずっと引っばってってくれました。もちろんその間にも、竹嶋夕美子さんや笹沼暁子さんなどの院生がいてくれたからこそではありますが、ラット研究は学部の卒論生が多かったので、その名前を挙げるとあと半頁は必要となってしまいます。申し訳ないけど割愛させて下さい。ということで、皆さんにお世話になりました。

学科の先生方にお世話になったのはもちろんのことですが、中央研究室の助手さんたちには一言で言い表せないほどお世話になりました。最後になりましたが厚く御礼申し上げます。皆さまありがとうございました。

【在学生に向けて】

インテルの基盤を開発した嶋正利さんの、「決してあきらめるな、手を抜くな、そして素早くやれ」は、実験演習1でさんざん言ってきましたので、耳タコでしょう。ここでは自分の座右の銘について書いておこうと思います。

1つめは、「初心忘るべからず」です。これは世阿弥の言葉なので、能の修行のことなのでしょうが、道を究めるという意味では研究も一緒なので通じる場所があると思っています。直接結びつくものではありませんが、人間関係においても大いに役立つ、というか気に留めておくべき言葉であると思っています。



▲11月30日ラットスタッフと花火をした時

2 つめは、「日々に孜々、日に新たなり」で、これらは中国の古典から取った言葉です。日々一所懸命にやる。一方で、そこに固執することなく新たなものを求める、新しいことに常に挑戦していく心をもつことはさらに大切なことでしょう。毎日を、新鮮な気持ちで迎えたいと思います。

3 つめは、「人生捨てたもんじゃない」です。人生、長く生きていけば辛いことも多くあるものです。その1つ1つを誠実に乗り越えていけば(ときに逃げることも大事ですが)、トータルな人生ではいいことも結構あって、そんなに悪くないんじゃないか、ということです。これは私の実感でして、お陰でなんとか生きて来られたということなのです。

座右の銘というのは、自分ができないからいつも掲げているということなので、これからもこれらの言葉は、私の人生の中で繰り返し唱えられるのであろう、つまり、これからも道を究められることはなく、私は自分を見つめながら一步一步歩いていくということになるのだらうと思います。若い皆さんも、その時代その時代に応じて、座右の銘をおもちになるのだらうと思いますが、それらを心の糧にしてよい人生を歩まれることを願っております。

【ゼミ生からの質問】

Q1 一番好きな動物はなんですか。

A1 質問としてはレベルが低いんじゃないですか(笑) やっぱりニホンザルが好きですね。チンパンジーは怖いので。

Q2 一番好きな動物園はどこですか。

A2 …(思考中)…出てこない。海外ですね。

Q3 時々着ている動物のワンポイントが入ったシャツは先生のご趣味ですか。

A3 あれは僕の奥さんが買ってきているんですよ。研究室の動物の飾りは卒業生からの贈り物です。…あ、そうそう(Q2 の動物園)「サンディエゴズー」でした。行ったのはずいぶん昔ですが動物園のバックヤードに入ったのはあれが初めてでした。皆さんも新婚旅行で行くといいですよ。

Q4 一番好きなお菓子はなんですか。

A4 五家宝(ごかぼう)ってお菓子知ってますか。粟で作った餅を水飴でかためてきなこをまぶしたお菓子です。沖縄のちんすこうもおいしいですよ。

Q5 今の4年生についてなにかありますか。

A5 まあ最後に一緒に卒業する学年だからずっと覚えてるでしょうね。

以上です、ありがとうございました。



▲ゼミ生と多摩動物公園に見学に行った時



堀江桂吾講師 ご就任記念特集



鶴養美昭先生の後任として、2017年4月より堀江桂吾先生が本学心理学科にご就任なさいましたので、この場をお借りし、ご紹介させていただきます。



経歴

神戸大学で社会心理学を学んだあと、東京都立大学(現 首都大学東京)大学院に進学し、臨床心理学を学ぶ。大学院修了後、総合病院や精神科病院などの医療機関で臨床心理士として約15年勤務。

山梨英和大学を経て2017年4月より日本女子大学に勤務しています。



専門分野

心理検査や面接を通じた心理アセスメント

精神分析的心理療法(子どもとのプレイ・セラピー、箱庭や描画を使ったアート・セラピーも含め)

☆この分野を目指したきっかけ☆

幼少期の転居、転校などで苦労があり、将来は自分の経験を誰かの役に立てたいと思い対人援助の仕事を考えていました。もともと、哲学や、社会学、心理学に興味があったこともあり、臨床心理学の専門家の道を目指しました。



今後やっていきたい授業

今もやっていますが、心理アセスメントの授業を通して、自分の臨床経験を学生の皆さんに伝えていきたいです。



本学生のイメージ

専任になる前、数年非常勤講師をやっていたので、ある程度知っていましたが、日本女子大の学生は頭が良いうえに根性があるという印象があります。



1問1答

休日の過ごし方は? 温泉旅行が好きですが、最近行けていません。

趣味 読書と音楽鑑賞。コーヒーを飲みに行く。

小さいころの夢 探検家。

昼食は? 最近学食を利用するようになりました。

大学へは登山派?バス派? 春は登山だったのですが、夏以降バスが多くなっているかも。

聞いてみました!



本学学生に一言!

多くの人にとって、専門的な学びに触れるのは大学がラストチャンスだと思います。

是非、自ら興味を持った分野に関して、主体的に学ぶ姿勢を身につけてもらいたいです。

一緒に学びを深めましょう。

助教の先生お二人が

退職されます。先生より
メッセージをいただきました。

星名由美 先生

母校である日本女子大学に着任した6年前、立場が変わると環境も変わるのを痛感しました。みなさんも社会に出るといろいろなことがあると思います。どうやって乗り越えるか？私の転機は、5年前の日女祭で学生有志と盲導犬チャリティグッズ販売にチャレンジしたことです。目を怪我した経験から盲導犬を応援したいと考え思い切って財団法人へ問い合わせて一歩を踏み出せました。この活動で多くの出会いがあり、自分の時間が誰かの役に立つという実感を得て、やる気を取り戻しました。サクラボや授業の地域イベント、かわさきWS、高島屋「大学は美味しい!!」フェア…とにかく忙しかった！多くの先生方やスタッフに支えられ、学生のみなさんと走り回っていた楽しい6年間でした。

「ゼロよりはいいよね！」が合言葉です。

みなさんも柔軟な発想で、
まず第一歩を！



内田真理子 先生

六年間、助教を務めさせていただきました。授業では、実験演習と心理学概論という、いずれも初年次科目を担当しました。不安とやる気が綱交ぜの新一年生を引率していただくの技量も度量もなかった私は、毎回反省と計画練り直しの繰り返しでした。山登りに例えると、谷間の薄暗がりの中で急斜面を一步一步進んでいくような感じです。それでも、学生の皆さんが学業に真摯に臨む姿と、心理学科の諸先生方、中央研の助手の皆さんのアドバイスを道標として進み続けることで、ときどき尾根に出て見晴らしを楽しめるようになってきました。任期が来てしまい下山するのはちょっと残念ですが、皆さんに鍛えてもらった経験を糧に、また新しい山に挑戦したいと思います。六年間たいへんお世話になりました。

皆さんお元気で。

編集後記

今年度の心理学科の会講演会では、3名の卒業生をお迎えしました。お仕事の内容や勤務体系など詳しくお話し下さり、学生の皆さんは、これからの進路を考える上で参考になったのではないのでしょうか。

「さいころじん23号」編集にあたりましては、多くの皆様にご協力いただき、無事に終えることができました。講演会に参加して下さった卒業生の皆様、インタビューに答えて下さった先生方、会の運営や原稿作成をして下さった院生・学部生の皆様、また、いつも優しくご指導下さり、全ての取りまとめをして下さった中央研・先生方に厚くお礼申し上げます。

M1 藤井明子

2017年度

心理学科の会 運営委員

M1

金澤千尋 平川千波 藤井明子
4年生

山本美織 蓬田真以子 渡邊優
3年生

加藤さやこ 佐藤桂奈 瀬尾優美子
2年生

澤田奈々実 高松珠里 多賀谷明代
1年生

笹井美海子 佐藤鈴夏 廣田春乃

担当教員

岡本安晴教授 塩崎尚美教授



日本女子大学 心理学科の会

〒214 - 8568

神奈川県川崎市多摩区西生田1-1-1

TEL

044 - 952 - 6870

2018年3月発行

